

小杉山円満寺 令和三年 大黒天祭号

寺だより

新庄市五日町五九一四

TEL 二二一〇四三三三

Fax 二二一〇一六六

発行日令和三年十一月吉日

発行人山尾瑛紀

十一月に入り、秋が深まりました。木々の葉が落ちて、景色が水墨画のようになりました。皆様、いかがお過ごしでしょうか。

さて、境内に入って来られた方々は、おやつと思うかもしれません。

十月に桜の大木を切りました。毎年、アメシロが大発生することに加え、大きな枝が落ちるようになりました。それで、切ることにしました。

毎年春には見事に花を咲かせていたのですが、思い切って切ることにしました。これから、若い木を植えて、育てていくことにします。

はしり大黒天

みなさんは、大黒天といえば、どんな姿を思い浮かべますか。多くの方は、俵の上に立っている姿を思い浮かべるのではないのでしょうか。

円満寺でお祀りしている大黒天様は、波の上（はしり）大黒天とお呼びしています。



なぜ、波の上に立っておられるのでしょうか。

助けを呼ぶ衆生の所にすぐに駆けつけることができるようにという願いが込められています。

どうして、円満寺に祀られているのか、それは分かっています。

毎年、十一月二十三日、円満寺では大黒天のお祭りを行っています。開運繁昌・五穀豊穰を願って、護摩祈禱を厳修します。例年は、お参りの後、精進料理を食べていただくいております。が、今年もそれは取り止めにいたします。昨年同様、くるみ餡と切り餅を持ち帰っていただき、ご自宅で食べていただきたいと思えます。



桃令院と円満寺

今年、新庄祭りの山車の一つが桃令院を取り上げました。それで、山形テレビから当寺が取材を受けました。

桃令院は、新庄藩最後の、十一代藩主戸澤正実（まさざね）の母です。島津藩から嫁いでこられました。

幕末の戊辰戦争時、お城が焼き払われました。そのとき、円満寺に仮住まいされました。

その部屋が、円満寺の庫裏の奥にある書院作りの部屋です。

「戸澤上野介母休」と書かれた看板があります。きつと、玄関に掛けられたものと思われま



奥の部屋の釘隠しが桃の形になっています。仮住まいなさるといので、部屋を改装したときに、釘隠しを桃の形にしたのかもしれない。ちなみに、手前の部屋の釘隠しは、四つ菱です。昔の本堂に、丸に十の字の島津家の家紋が入ったおひつなどの調度品を展示していただきました。昭和四十三年の火災で失くしてしまいました。亡くなった祖母がとても残念がっていました。

第二次大戦中は、桃令院の孫に当たる方が、円満寺に疎開なされています。年が近いというので、祖母がお世話係を勤めたそうです。お

二人は亡くなるまで、書面のやり取りなど、交流がありました。

お堂紹介

雷神堂



第五代藩主戸澤正誼(まさのぶ)候によって、一七五二年に建立されました。新庄祭りが始まる四年前です。

気候安定・五穀豊穰を願って建てられました。当時、気候が不安定で、作物が半分以下しか採れないという不作・飢饉の年が続きました。

そこで、良好な天候と豊作を願って雷神を祀りました。

十数年前までは、秋になると、雷神様に、柿などの果物や餅をお供えする方がいらつしやいました。日照りが続く夏にお参りにいらつしやる方もおられました。

シリーズ

密教の教え

これから何回かに分けて、真言宗の教えの特色を、弘法大師が示した言葉をもとに紹介していきます。

その二「六大瑜伽」

密教の教主、大日如来とはどのような存在なのでしょう。

それは、自然的・物質の様相である地水火風空の五大と人間的・精神的な要素である識大(合わせて六大)とが、互いに混ざり合い、感応し合う(瑜伽)世界そのものであると弘法大師は説きました。

通常であれば、自然的宇宙には識大(欲・分別)存在しないと思えるけれども、物質と精神とは絶対的に不離な関係にあることが、即身成仏の根拠となりました。



おさそい

◇朝護摩に参加してみませんか

手を合わせ、真言を唱え、心に仏様を思い浮かべながら、護摩の火に心願成就を祈ってみませんか。

- 毎月十七日 午前七時から
- 歓喜天堂で
- 参加料 無料
- 所要時間 約三十分
- 予約は不要です。
- 護摩木祈願を希望の方は、一本百円です。

境内スポット

アジサイの挿し木

今年初めてアジサイの挿し木をしました。

スマホで、茎の切る位置、葉の処理、使う土などを調べながら行いました。近所の方からも細かな事をアドバイスしていただきました。

九月半ば、根が出たのを確かめながら、培養土に植え替えました。上手く越冬させ、来春に地植えしたいと思います。

